

1.開講年度	2023
2.開講期	後期 金4限
3.講義コード	30177
4.授業科目	経済統計論Ⅱ (2023-後期-金4)
5.単位	2
6.担当教員	佐井 至道
7.配当学年：法学科	2年以上
8.配当学年：経済学科	2年以上
9.配当学年：経営学科	2年以上
10.配当学年：商学科	2年以上
11.備考	(事前申込科目) 経済学部2年生優先
12.実務経験	
13.実務経験：内容	
14.実務経験：授業との関連	
15.初年次教育	
16.授業形態	講義, 演習
17.授業方法	受動型, アクティブラーニング：課題解決型
18.受講生のPC等使用	PC・タブレット(教室に備付), PC・タブレット(学生自身が準備)
19.接続科目	地域社会, 国際社会, 産業界

20.授業の概要

経済学部経済学科に係る専門科目(選択必修科目)として、本講義は経済統計論Ⅰに引き続いて、経教育理念に沿って、統計という手法を用いて経済事象を捉え、分析し、解決する能力を備えた人材の育成を目指す。

21.到達目標（身につける資質・能力）を項目ごとに分けて列挙する

- 1) 変数が3個以上ある多変量データについて特徴を把握することができる。
- 2) 重回帰分析や数量化理論 I 類などを用いて多変量データを分析できる。
- 3) 個々に収集した実際の多変量データについて適切な手法を用いて分析できる。
- 4) 質的変数のデータに対してダミー変数を用いて適切な分析ができる。

22.授業計画

この講義は対面で行う予定である。連絡事項についてはWebClassを通じて行う。

オンライン対応時には、YouTubeの視聴を基本とし、講義時間前にWebClassで視聴方法などを説明するとともに資料を配付し、課題はメールに添付して送信してもらう。

1.多変量解析の概略

- ・事前学修：講義で使用する手法の予習
- ・事後学修：講義で学習した手法の復習

2.相関係数と単相関回帰

- ・事前学修：講義で使用する手法の予習
- ・事後学修：返却されたレポートについての復習

3.重回帰分析の概略

- ・事前学修：講義で使用する手法の予習
- ・事後学修：返却されたレポートについての復習

4.重回帰分析の利用例

- ・事前学修：講義で使用する手法の予習
- ・事後学修：返却されたレポートについての復習

5.重回帰分析応用：重相関係数と偏相関係数の導入

- ・事前学修：講義で使用する手法の予習

- ・事後学修：返却されたレポートについての復習

6.重回帰分析応用：重相関係数と偏相関係数の利用

- ・事前学修：講義で使用する手法の予習
- ・事後学修：返却されたレポートについての復習

7.重回帰分析応用：データの変換と回帰

- ・事前学修：講義で使用する手法の予習
- ・事後学修：返却されたレポートについての復習

8.重回帰分析応用：ダミー変数の導入

- ・事前学修：講義で使用する手法の予習
- ・事後学修：返却されたレポートについての復習

9.重回帰分析応用：ダミー変数の使用

- ・事前学修：講義で使用する手法の予習
- ・事後学修：返却されたレポートについての復習

10.数量化理論の概略

- ・事前学修：講義で使用する手法の予習
- ・事後学修：返却されたレポートについての復習

11.数量化理論 I 類の利用法

- ・事前学修：講義で使用する手法の予習

- ・事後学修：返却されたレポートについての復習

12.ログリニア分析の概略

- ・事前学修：講義で使用する手法の予習
- ・事後学修：返却されたレポートについての復習

13.ログリニア分析の利用法

- ・事前学修：講義で使用する手法の予習
- ・事後学修：返却されたレポートについての復習

14.個々に収集したデータに対する分析

- ・事前学修：分析するデータの収集
- ・事後学修：予測結果と実際の値との差の評価

15.レポート作成

- ・事前学修：分析するデータの収集
- ・事後学修：予測結果と実際の値との差の評価

23.予習・復習

予習（1時間程度）使用するデータの選定，手法の予習など

復習（3時間程度）レポートの作成，返却されたレポートについての復習など

24.注意事項

成績評価方法：レポートと講義内の小テスト

講義における出席状況や提出する小テスト（小レポート）を80%，講義内のレポートなどを20%として評価する。小テスト（小レポート）については，毎回チェックして返却し，次回の講義で解説する。

ほぼ毎回の講義において，パソコンを用いてデータ分析を行う。

希望者多数の場合には抽選を行うが，2022年度入学の経済学部生を優先する。

25.教材

プリントを配布する。

26.教科書

27.参考書

ISBN	978-4-88730-420-8
書名	例解調査論
著者	佐井至道
出版社	大学教育出版
価格	2400円

28.授業関連科目

データサイエンス入門I, IIを前年度までに受講していることが望ましい。

経済統計論Iを受講していることが望ましい。

29.授業関連資格

社会調査士

データサイエンス・リテラシー教育プログラム

30.育成する資質・能力（カリキュラムポリシーとの関連）

カリキュラムポリシー	内容	学習目標(比率)
CP1（専門知識）	法学、経済学、経営学、商学に関する専門知識の学習	45%
CP2（一般知識）	社会科学の種々の問題を的確に捉える幅広い一般知識の学習	5%
CP3（思考力）	社会事象を論理的、創造的に思考する能力の学習	15%
CP4（判断力）	社会事象を的確に捉える洞察力と判断力の学習	15%
CP5（会話・文章力）	テーマ内容を的確に表現・伝達する日本語・外国語能力の学習	3%
CP6（意欲・責任感）	社会事象に積極的に参加しようとする意欲と責任感の学習	2%
CP7（協調性）	多様な人々と協調して主体的に活動するリーダーシップの学習	5%
CP8（持続性）	生涯にわたって学び続けようとする態度の学習	5%
CP9（倫理観）	社会のルールを守る倫理観の学習	5%

31.成績評価方法

評価手段	実施内容	評価比率
試験		
小テスト	講義における出席状況や提出する小テスト（小レポート）の内容を評価する。	80%
レポート	1回作成するレポートの内容を評価する。	15%
成果発表		
受講態度	受講状況を持続性・協調性などを含めて評価する	5%
その他		